

環境活動の未来の担い手、高校生に確かな環境意識を

■本プロジェクトが高校生を対象にしている理由をお聞かせください。

環境悪化の影響を受けるのは、間違いなく次世代です。国際会議ではよく「何年までに何をする」という目標を立てますが、温暖化対策の国際交渉では2020年や2050年が目標年となっています。今年16歳の高校生は2020年に24歳、現場で活躍する若手になります。そして2050年には54歳で、社会で責任ある立場となっているでしょう。つまり、環境活動の未来の担い手となる高校生に、今、環境意識をしっかりと持つてもらうことが大事だと考えているのです。

■現在、高校ではどのような環境活動が行われているのでしょうか。

生徒会が中心となって行う地域の清掃活動や、途上国へワクチンを送るためのペットボトル・キャップの回収といった活動はかなりの多くの高校で行われています。さらに進むと、生徒会の下に環境委員会を作ったり、部活動で環境プロジェクトを展開したり、農業高校や工業高校では授業の一環として取り組んでいるケースもあります。ただ、このような活動を発表する場がない

かった。外に向けて発表できる場を作りたいと考え、「高校生環境活動発表会 全国大会」を始めました。

普段の活動から国際問題まで様々なレベルで高校生を応援

■実行委員会の活動の中心は「場」の提供ということですか。

2つあります。一つは地区大会や全国大会など、高校生が交流し、刺激し合えるような発表の場を作ること。もう一つが、より広い視点から環境問題を考えられるよう、学習の機会を提供することです。環境問題のプロを招いて気候変動や国際交渉の現場について講演してもらったり、リオ+20などタイムリーな国際的環境イベントを取り入れたりしています。これらのプログラムを作るのは私たちですが、プロジェクトの主役は常に高校生なんです。

■高校生が企業を訪問する活動もありますね。

最先端の環境技術が学べ、非常に勉強になります。例えば、ペットボトル。分別してリサイクルに回すけれど、その先がどうなっているかは分からない。でも、実際に工場を見学し、再生されたペット樹脂を手にとると、分別の方法や意味が理解できる。分ければ、友

達に「ここに、こんなふうに捨ててね」と伝えることができるようになります。

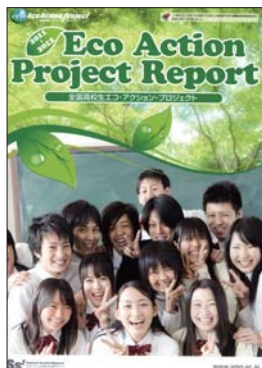
■企業側の反応はいかがですか。

最初は、高校生だと甘く見ていたようです(笑)。環境活動を行っている高校生は、環境に対する意識も知識も相当レベルが高い。企業訪問の際、高校生が自分たちの活動を説明すると、たいていの企業さんはビックリされます。

■活動内容を見ると、雪氷熱利用や出前授業等、環境NPO顔負けです。



第2回「高校生環境活動 発表会 全国大会」で、瀬戸内海に沈む「海ゴミ問題」について発表する岡山県の山陽女子高等学校 地歴部の皆さん



地球環境基金の助成によって作成し、500校へ配布した冊子



栃木県立栃木農業高等学校の生徒さんが、ペットボトルリサイクル企業・協栄産業株式会社(ジャパンテック株式会社)を訪問

小学校への出前授業は、年齢が近いせいか非常に上手で、大人の出る幕がありません。あと、ホタルを育てている高校生が、介護施設を訪ねてお年寄りにホタルを見せる等、地域に密着した活動がたくさんあります。

ネットワークを充実させ

環境問題を解決する大きな力に

■地球環境基金の助成はどのように使われているのでしょうか。

P a r t n e r ' s T a l k

全国高校生エコ・アクション・プロジェクト実行委員会

今こそ、高校生に注目！ 地球環境の未来を担う世代にもっと情報と発表の場を

助成団体
レポート

小中学校で行われている環境教育、大学生を対象にした企業やNPOによる環境インターンシップ。その狭間で、あまり注目されていなかった高校生の環境活動にフォーカスして支援を行っているのが、「全国高校生エコ・アクション・プロジェクト実行委員会」です。



お話を伺った運営委員の大木正和さん



地区大会や全国大会の開催、そして1年間の活動をまとめた冊子の作成・配布に使わせていただいています。環境に興味のない高校生はたくさんいます。そんな高校生を巻き込み、環境に関心を寄せてもらうことが大事なので、読みやすい冊子にし、先生方にもご覧いただき、図書館にも置いてもらう。大会に参加した高校生には、朝礼などで発表するようお願いしています。

全国に5200校程ある高校のうち、約350校の環境活動を把握していますが、これをさらに広げ、環境を切り口にした高校のネットワークを作りたい。このネットワークは誰もが使えるようオープンにします。例えば、行政が環境キャンペーンを行う時、あるいは地区で勉強会を開く時、ネットワークがあれば、多くの人に素早く情報を伝えられる。それが、環境に関心のない層を動かす力になるのではないのでしょうか。

DATA BOX

- 名 称：全国高校生エコ・アクション・プロジェクト実行委員会
- 住 所：〒105-8002 東京都港区浜松町1-31 株式会社文化放送開発センター内
- U R L：http://www.smn.or.jp/eco/
- 目 的：日本、そして世界の将来を担う高校生の環境活動を、学習や発表の場を提供することによって支援する。

●活動実績

- 2010年 4月 事業スタート
- 10月 生物多様性条約COP10「生物多様性交流フェア」見学
- 12月 「高校生環境活動 地区大会 発表会」を5会場で開催(札幌・東京・名古屋・大阪・福岡)
- 2011年 2月 第1回「高校生環境活動 発表会 全国大会」開催
- 8月 「東北地区高校生環境シンポジウム」開催
- 12月 「高校生環境活動 東北地区交流発表会」開催
- 2012年 2月 第2回「高校生環境活動 発表会 全国大会」開催
- 6月 「エコライフ・フェア2012」にブース出展し、活動発表
- 8月 「高校生環境サマースクール」開催

●主な活動内容

- ・環境活動高校紹介 ・環境イベント訪問 ・環境シンポジウム
- ・企業訪問 ・環境活動発表会



東北から7校の参加を得て「復興と環境」をテーマに開催された環境シンポジウム(仙台)



「エコライフ・フェア2012」で活動を発表する昭和第一学園高等学校 環境研究部